

除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの 構築に関する研究（その9）

—社会資源を有効活用し低予算で実現できる除雪ボランティアの取組についての事例検討—

Investigation concerning the Construction of Cooperative, Interdependent Communities through Volunteer Activities of Snow Removal (Part9)

—Through some collected cases and systematic classification of the Voluntary Snow-Removal Activities which effectively use Local resources and succeeds with a Limited budget.

高 橋 和 幸

I. はじめに

本稿はこれまでの続報である¹⁾。豪雪地帯特別措置法で豪雪地帯指定されている市町村が24道府県に532市町村ある。当該地域では急速な高齢化と共に、要援護世帯で除雪の困難な方々が発生し深刻な問題となっている。これに対し国土交通省は、住民共助による地域除雪に注目し平成18年度より「豪雪地帯における安全安心な地域づくりに関する調査」²⁾において雪処理の担い手育成・確保のための実証実験を開始した。平成23年度からは「雪処理の担い手確保、育成のための克雪体制支援調査」³⁾に引き継ぎ、平成26年度からは「雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査業務」⁴⁾において事業対象地を選定し除雪ボランティアを含む取組に対する公費助成を行っている。一連の事業により、住民共助の地域除雪が見直されていると共に、雪国移住ツアーや非降雪地域との交流、雪害防止のための安全講習会を含む除雪ボランティア等の先導的取組が展開されている。また、それらの情報が国土交通省のホームページへの掲載、あるいは取組事例集⁵⁾として発刊されている。

上記の事業対象市町村への公費助成額は50万～100万円という規模も含まれ、事業費スケールのメリットを生じた体制構築、参加規模が大きくイベント性に富む活動が展開されていることを踏まえると、果たしてその手法をただちに各地で真似できるかという疑問が残った。むしろ、筆者は、比較的低予算で地道に取組む事例に焦点を絞り、限られた予算の中で除雪ボランティアの実現に向け、どのような地域資源を有効活用し、こういった技術的工夫をしているか事例検討したいと考えた。

II. 研究方法

II-1. 調査方法と得られたデータの整理、分析方法等

豪雪地帯特別措置法で豪雪地帯指定された532市町村（ボランティア支援担当部署）および同市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）に質問紙で郵送調査を実施した。平成26年度市町村対象調査は同年11月から12月、平成27年度市町村社協対象調査は同年11月から12月、平成28年度市町村社協対象調査は平成29年2月から3月にかけて3年連続で実施した。調査のねらいは2つあり、第1は除雪ボランティアの活動実態及び支援の実態ならびに普及に向けて抱える課題を選択回答してもらい、統計データを構築すると共に年次変化を把握することである。第2は地域の実情に沿ったユニークな除雪ボランティアの取組について事例収集することである。

上記の3年に渡る調査において「地域の実情に沿ったユニークな除雪ボランティアの取組」情報が平

成26年度には22市町村、平成27年度には58市町村、平成28年度には45市町村から寄せられた。なお、同一市町村から複数年にわたり同じ取組を紹介頂いたものは1つの取組として集約し、同一市町村から複数年にわたり活動内容の異なる取組を紹介頂いたものは別ケース（取組）として扱った。また、理由は後で詳述するが事業経費の規模が20万円以下のものを低予算と定義し対象としたため、同一市町村から複数の取組が紹介されたものの対象外とした取組もあった。一連の選定手法に従い、対象を51市町村から紹介された54の取組に絞り込んだ。続いて事例検討の手順であるが、対象となった54の取組については市町村・市町村社協担当者から「事業の名称」、「事業概要」、「事業費」、「事業成果」等を自由記述してもらったので、これを質的データとして扱い、以下4つの作業仮説を立て検証する形をとった。

作業仮説1. 低予算で実現する取組には活動主体・運営方法に特徴があり、いくつかのタイプ（種類）があるのではないかと。これを検証するために対象54取組を紹介した文中より、他の取組と比較して活動主体や内容の特徴が最も現れている（核となる）部分について注目し、キーワード（**囲み字**）とした。キーワード（**囲み字**）を類似性や共通性をもとに大枠で9つに分類整理した。次章Ⅲの表1～表9はこの分類順にて提示している。

作業仮説2. 低予算で実現する取組は上記の（核）となるもの以外に、どのような活動内容・運営方法の特徴を併せ持っているか。組合せに注目することにより類型化や共通性が見い出せないか。これを検証するため対象54取組の紹介文中より、活動内容・運営方法の特徴が見出せる箇所全てに注目しアンダーラインを引きコードとし、それらを内容の類似性に着目して分類・集約していった。コードへ割り振るネーミングは仮説1で用いた9つに分類した際に用いたものをそのまま使用したので、コード名とカテゴリー名が一緒になった。まずは全54取組中における【コードA～I】の出現頻度を分析した。次にそれらコードと前述の**囲み字**（核となる）部分との組み合わせに注目した。

作業仮説3. 低予算の理由の記述だけに注目して、特徴や共通性が見い出せないか。この検証では、低予算の理由について記述されている箇所（ア）～（マ）に注目し、これらをコードとして類似性に基づく分類整理を行った。

作業仮説4. 低予算で実現する除雪ボランティアの取組はそもそも多雪地域のみの特徴なのか。この検証では、54取組の取組が展開されている51市町村の累計降雪量（冬期間の日々の積雪cmの総計値）の比較から、どのような積雪量の地域での取組が多いか分析した。

Ⅱ-2. 低予算で実現する除雪ボランティアの取組の範囲と倫理的配慮

低予算という枠組みを使った先行研究成果はなかった。1万（10千）円以下のような極端に低い予算額にしてしまうと対象事例が少な過ぎて比較検討ができなくなるため、対象事例数ある程度確保することも踏まえ、20万（20千）円以下に絞ることにした。また、地域の実情に沿ったユニークな取組については、パイロット調査において、「有償ボランティア形式でないと普及するのが難しい」等の声も寄せられたため、有償ボランティアの取組も含むことにした。

この調査への協力は任意であること、データ利用は研究目的に特定すること等を約束した上で調査を実施した。地域に実情に沿ったユニークな除雪ボランティアの取組については調査報告書などを通じて紹介し合い普及の一助にしたい旨、記載した。その趣旨に賛同し、自由記述を頂いた取組事例のみを掲載する方式で倫理的配慮を行った。なお、こうした紹介をもらう調査方法は、財団法人地方自治研究機構（2011年）「地域協働のまちづくりに資する人材開発に関する自治体アンケート」⁶⁾でも実施されており、同調査手法に依拠して調査票を作成し、回答団体に不利益が発生しないように配慮した。

Ⅲ. 低予算で実現する取組についての事例検討

Ⅲ-1. 作業仮説1の検証結果 低予算で実現する取組には活動主体や内容の特徴があり、いくつか

の種類（タイプ）があるのではないか

まずは、51市町村の54取組について特徴が最も現れている（核となる）部分を「**囲み文字**」にした結果、9つにカテゴリー化された。**A.世代を超えた交流**に6ケース、**B.学校生徒・大学生**に8ケース、**C.多機関・団体連携**に6ケース、**D.企業の社会貢献**に1ケース、**E.地域内、有志の助け合い**に8ケース、**F.安全・安心**に4ケース、**G.地域外との交流、イベント性**に6ケース、**H.社協、行政サービスの一環**に7ケース、**I.有償ボランティア形式**に8ケースのとおりである。以下、この順に紹介していく。なお、事例掲載にあたり市町村名の隣に（事例を収集した年度）、当該年度の累計降雪量、事業の名称、概要、事業費、成果と思われる事項を掲載し、累計降雪量や事業費規模での分析には表中の数値を用いた。

表1. **A.世代を超えた交流を核とする取組 6ケース**

<p>自治体名：山形県 米沢市（平成28年度収集） 累計降雪量386cm</p> <p>事業の名称：除雪ボランティア集中活動</p> <p>事業概要：高齢者や障がい者等自力での除雪が困難かつ支援が必要な世帯を対象に「学生や企業、団体の協力を得て」[A]⁽¹⁾、雪の多い地域1～2か所で集中的に除雪活動を行う。</p> <p>事業費：58千円</p> <p>成果と思われる事項：地域の方とボランティアとの交流[A]⁽²⁾が図れる。担い手の発掘（中高生、大学生）ができた[B]。</p>
<p>自治体名：岩手県 雫石町（平成28年度収集） 累計降雪量328cm</p> <p>事業の名称：雪っこ見守り隊</p> <p>事業概要：担い手：町内ボランティア団体（雫石町スノーバスターズ）、「中高生、企業、役場職員」[A]等。1月、2月の毎週土曜日午後に、主に玄関先の除雪と安否確認をメインに行う（無償）。</p> <p>事業費：200千円</p> <p>成果と思われる事項：平成28年度は延べ231人の参加者で、延べ408世帯へ巡回し除雪支援。企業から参加した感想では、除雪だけでなく安否確認や見守りを大切に活動した活動[F]であり、このような形のボランティアもあるのだと実感。除雪隊員の皆さんが元気に活動されている姿が印象的だった。今後も積極的に参加したいとのこと（雫石町ボランティア活動センター情報誌71号より）。</p>
<p>自治体名：北海道 京極町（平成27,28年度収集） 累計降雪量894cm（2か年平均値）</p> <p>事業の名称：どか雪もみんなでやったら大丈夫！町内除雪ボランティアイベント[G]</p> <p>事業概要：町内の除雪が困難な高齢者等を対象に除雪支援。担い手は「役場、団体、企業、中学校含め130名程度の町民」[A]⁽¹⁾。除雪作業終了後、各グループに活動報告をかいてもらい活動の報告をしてもらう他、社協職員による災害ボランティアセンター支援の活動報告も行い、日ごろのつながりの重要性を伝えた。作業終了後はボランティアグループによる炊き出しが行われる。</p> <p>事業費：14千円（平成27年度）、100千円（平成28年度）</p> <p>成果と思われる事項：利用者からの感謝の言葉で終了後の達成感。様々な団体が世代を超えて一緒に作業に取り組む交流[A]⁽²⁾。災害時だけではなく、平時の助け合いが大切であることを伝える機会となった。</p>
<p>自治体名：北海道 千歳市（平成26,27,28年度収集） 累計降雪量276cm（3か年平均値）</p> <p>事業の名称：千歳市スノーバスターズ</p> <p>事業概要：若手商工業者や自衛官で組織する団体が主催し、市営住宅の独居老人宅、また、高齢者住宅の除排雪困難地域の除排雪ボランティアを年1回行っている。担い手は、青空東北会（「青年会議所、航空自衛隊、陸上自衛隊東千歳駐屯地・北千歳駐屯地、行政職員、中・高・専門・大学生、企業、市民の有志」[A]）約800名。除排雪困難地域の選定には社会福祉協議会が協力している。</p> <p>事業費：0円 *（重機や除雪作業を行う大型車の提供および飲料は市内各企業が無償で協力^(ア)[D]）</p> <p>成果と思われる事柄：当該事業の取組が定着してきており、参加者数も年々増加していることから、除雪ボランティア活動による住みよい環境づくりに貢献[F]していると思われる。高齢者世帯等の除排雪をとおして声かけやふれあいが生まれ、冬期間の安心した生活につながっている。</p>
<p>自治体名：福島県 会津若松市（平成27年度収集） 累計降雪量381cm</p> <p>事業の名称：除雪ボランティア スノーバスターズ</p> <p>事業概要：自力で除雪が困難な一人暮らし高齢者宅やそれに準ずる世帯対象で、町内会で「地域ぐるみ除雪ボランティア」が組織されていない地域。除雪ボランティアに登録した方々が「担い手（個人、企業や団体、高校生等）」[A]となる。安全と日常生活を維持するのに必要な最低限の除雪[F]を行う（玄関前や通路等の除雪）。</p> <p>事業費：0円</p> <p>成果と思われる事項：要援護者への支援はもとより地域のネットワークづくりに寄与[E]している。</p>

自治体名：岩手県 西和賀町（平成26,27年度収集） 累計降雪量1445cm（2年平均）
事業の名称：雪かきボランティア「スノーバスターズ」
事業概要：対象者は、要援護者リストに記載されている高齢者世帯・独居高齢者の中で派遣を希望する方。活動内容は、除雪作業が困難な世帯を定期的にパトロールしながら、雪かき、道ふみ、雪下ろし等の手伝い及び話し相手になること。屋根雪おろしは基本的に行わない。1, 2, 3月にそれぞれ1日ずつ統一活動日を設け、除雪の必要性のない場合には冬季パトロールも行うようにしている。活動状況は地区毎（行政区単位）の班長が責任者となり活動している。ボランティア体験、学校教育の一環として中学生や高校生の参加者が多い（参加隊員の54%を中学生で占める【B】）。平成26年度の実績については、派遣世帯数が110件あり、延べ活動人数は721人。担い手は378人の登録があり、 中学生106人、高校生100人、一般会員172人で構成 【A】されている。
事業費：180千円（建設業協会からの寄付金10万円 ^イ 【D】、共同募金配分金5万円、県社協補助金3万円、繰越金で賄う）
成果と思われる事柄：スノーバスターズの活動によって、近隣住民同士の助け合いの精神（「結い」の精神）が強まる傾向にあり、また、年齢層が異なる隊員同士の交流の輪も広がっている。 県内各地に活動の輪が広がり、町外からも協力者が来る【G】 ようになった。

表2. B. 学校生徒・大学生を核とする取組 8ケース

自治体名：岩手県 北上市（平成27年度収集） 累計降雪量475cm
事業の名称：中学生の除雪ボランティア活動
事業概要：地区の民生委員が対象となる方を選定する。自主的にボランティア活動を行う 中学生 【B】 ⁽¹⁾ がグループを作り、 積雪になった場合、担当となった対象者宅へ中学生の判断で除雪活動【B】⁽²⁾ を行う。
事業費：10千円
成果と思われる事項：ボランティア活動の啓発と普及。 地域に高齢者や障害者が生活していることを把握することができる【A】 。
自治体名：岩手県 山田町（平成27,28年度収集） 累計降雪量115cm（2か年平均値）
事業の名称：雪かきボランティア
事業概要： 中学生 【B】の冬休み期間中の部活動時に、中学校近隣の65歳以上の独居・高齢者世帯等除雪が困難なお宅を対象として活動。支援が必要なお宅は、民生委員や地域住民と連携し職員が現状把握、調査したうえで、雪かきマップを中学生が作成し活動する。
事業費：0円
成果と思われる事項： 学校区を活動エリア^ウ とし、その地域の社会資源として地域の支え合いの取り組みを自主的に行っている事。雪かきマップを作成し掲示することでボランティア意識の向上と生徒間で地域活動のすばらしさが引き継がれている効果もみられた。 地元高齢者より若い世代の活動を喜び、応援したい【A】 との声があること。
自治体名：北海道 旭川市②（平成28年度収集） 累計降雪量482cm
事業の名称：除雪・排雪事業（中学校と地域の連携）
事業概要：旭川市立北星 中学生 【B】と春光西地区社社会福祉協議会による除雪支援。ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦世帯など7世帯を選定し、生徒のべ60人が1シーズン2日間に分けて除雪を行った。対象世帯は校区内のため、 生徒たちは徒歩で移動^エ する。 除雪道具 （スノーダンプなど）は北星中学校のボイラー室に保管されており、その 購入費は春光西地区社協から支出^オ している。
事業費：20千円
成果と思われる事項：除雪に不安がある世帯の不安解消と除雪先で「ありがとう」と感謝されることにより、中学生たちの自己肯定につながった。そのことは、 安心して暮らし続けられる地域づくり【F】 の推進につながった。
自治体名：北海道 名寄市（平成28年度収集） 累計降雪量792cm
事業の名称：名寄高校野球部による除雪ボランティア
事業概要：自力で除雪が困難な高齢者や障がい者世帯を対象として、高校周辺町内会へ名寄 高校 【B】野球部が除雪に伺う。
事業費：0円*（高校側でボランティア保険料も負担しているので社協としての予算措置なし ^カ ）
成果と思われる事柄：自力で除雪が困難な世帯の生活の安全確保。 普段あまり関わることもない地域住民と高校生との交流【G】 ができた。また、除雪対象世帯を訪問することで、安否確認や話し相手、外出する機会を得ることができた。高校生の地域活動への参加促進。高校生のボランティア活動や福祉に対する関心の醸成が挙げられる。
自治体名：岩手県 花巻市（平成28年度収集） 累計降雪量86cm
事業の名称：花巻市立矢沢中学校による「冬のサンキュープラン【G】」
事業概要：対象：ひとり暮らし高齢者等（社協と民生委員とで連携して取り組む要援護者台帳の対象から）。担い手：花巻市立矢沢 中学生 【B】の生徒。内容：事前に対象の移行調査を民生委員が行い、リストアップ。決められた日程に近所の中学生在が高齢者宅を訪問し雪かきを行う。
事業費：0千円
成果と思われる事項： 地域の高齢者と中学生の交流が図られる 。なお、夏は草取り、窓ふきを実施【A】している。

<p>自治体名：北海道 旭川市①（平成27年度収集） 累計降雪量553cm</p> <p>事業の名称：除雪・排雪事業（高校と地域の連携）</p> <p>事業概要：旭川明成【高等学校】【B】 インターアクト部と旭星地区社会福祉協議会による「安心見守り 【F】」等事業対象者」に対する除雪支援。</p> <p>事業費：5千円</p> <p>成果と思われる事項：地域と学校がつながったことにより、協働した活動の醸成と、生徒たちの姿に刺激を受け、「自分たちも何かしなければ」といった隣近所との助け合いの輪が拡大 【E】 した。</p>
<p>自治体名：北海道 夕張市（平成27年度収集） 累計降雪量793cm</p> <p>事業の名称：札幌学院大学アメリカンフットボール部除雪ボランティア</p> <p>事業概要：札幌学院大学 【B】 アメリカンフットボール部員が、夕張支援と冬の筋トレを兼ね、毎年市内南部地区の高齢者宅（ひとり暮らし）の除雪ボランティア 【G】 を行っている。同地区在宅福祉サービス推進委員会がカレーライスの炊き出し。地区の駐在所の警官が車の誘導、除雪作業に協力。社協からはスコップ・手袋を貸し出し、市民から寄贈された軍手を使用。安全のためのヘルメットを市役所から借りている 【キ】。地区の男性が学生の除雪の指導をし、学生と和気あいあいと除雪作業。</p> <p>事業費：1千円（ボランティア保険料助成のみ）</p> <p>成果と思われる事項：市内でも高齢化率の一番高い地区であるにも関わらず、夕張に迎え入れる南部地区在宅福祉サービス推進委員会の方々、南部地区の駐在所の警察官、南部地区在住の市議会議員・議長、夕張市共同募金会会長が繋がり、除雪ボランティアを行うので、地域の一体感 【F】 を感じる。</p>
<p>自治体名：山形県 尾花沢市（平成26年度収集） 累計降雪量777cm</p> <p>事業の名称：中学生による雪かき塾</p> <p>事業概要：市立尾花沢【中学生】 【B】 2年生の総合学習（学年行事）として平成21年度から実施。雪処理の担い手育成や雪処理技術の伝授、除雪ボランティアの拡大等を目的としている。</p> <p>事業費：0千円 【※（尾花沢市社協内に設置された除雪ボランティアセンターの連絡調整、移動は公用車、中学生の除雪道県は各個人で持参） 【C】 等の工夫による）</p> <p>成果と思われる事柄：中学生が地元高齢者宅等の除雪を行うことにより、地域内での交流や顔の見える関係性 【A】 【1】 を構築（安全安心な町づくり 【F】 【1】）することができている。活動が毎年恒例化することで、除雪の必要なシーズンに入ると地域住民が子どもたちに積極的ににかかわってくれる 【A】 【2】 ようになった。積雪期以外の日頃の要援護世帯への見守りネットワーク 【F】 【2】 にも影響し成果が現れている。</p>

表3. C. 多機関・団体連携を核とする取組 6ケース

<p>自治体名：北海道 礼文町（平成28年度収集） 累計降雪量756cm</p> <p>事業の名称：除雪支援</p> <p>事業概要：町内の高齢者、障がいのある方で除雪が困難な方を対象に除雪を実施する。メンバーは【社協、自衛隊、消防署、行政、民生委員、町内会】 【C】 【1】、年に1回事前に会議を開催している。</p> <p>事業費：100千円</p> <p>成果と思われる事項：その年度により降雪が少なく、未実施になる事もあるが、年に1度の会議にて地域や高齢者等の情報交換ができています 【C】 【2】。</p>
<p>自治体名：青森県 西目屋村（平成27,28年度収集） 累計降雪量671cm（2か年平均値）</p> <p>事業の名称：スノーウォーク</p> <p>事業概要：冬期間の除雪が困難な高齢者世帯等に対し、生活道路などの除雪をし、安心した日常生活を実現するとともに、地域住民のボランティア活動への意識向上を目的とする。地域住民、企業、地方公共団体等 【C】 【1】 がボランティアとして活動。ボランティアの精神的負担を考慮し、活動日を固定化せず、また、強制参加ではなく「今度の〇〇日に活動するので都合が良ければ参加をお願いします」という自由参加にしている。村内回覧板、社協自作のポスターやチラシによる周知、各地区会役員などへ声をかけて募集 【コ】 している。</p> <p>事業費：19千円（平成27年度） 60千円（平成28年度）</p> <p>成果と思われる事項：地域住民の他に地元企業や行政職員が参加協力するようになった 【C】 【2】。</p>
<p>自治体名：富山県 黒部市（平成28年度収集） 累計降雪量162cm</p> <p>事業の名称：あったか雪募金事業・市内一斉雪かきDAY</p> <p>事業概要：黒部市内の積雪の多い地区を中心に、除雪活動が困難な世帯や支援が必要な場所に対して、市内企業、団体、ボランティアなどが集まり、地元地区社協と協力しながら除雪活動 【C】 【1】 を行う。支援者の把握、ボランティアの呼びかけ、活動の資金などを社協、行政、地元地区、共同募金委員会が役割分担 【サ】 をしながら雪害という課題解決に取り組む。</p>

<p>事業費：200千円</p> <p>成果と思われる事項：市内一斉雪かきDAYで除雪ボランティアを募集して実施することにより、市内企業、個人、団体とネットワークができ、緊急時における除雪支援の体制をこの事業を通じて、整えることができた【C】⁽²⁾。</p>
<p>自治体名：福島県 昭和村（平成27年度収集） 累計降雪量1084cm</p> <p>事業の名称：「ゆきだるマン」活動</p> <p>事業概要：対象：70歳以上の一人暮らし高齢者世帯など。担い手：社協・村役場・老人ホーム職員【C】⁽¹⁾が地域貢献の一環で、毎週日曜日に訪問している。内容：会員を4班に分けて対応している。主に声掛けによる安否確認【F】を行い、必要に応じて玄関先の道つけ（除雪）を行う。</p> <p>事業費：0円 *（ボランティア保険は各自負担。巡回する際の車両については、各職員が運転することを原則として、各事業所より無償提供してもらっているため）。</p> <p>成果と思われる事項：一般住民の方々からの参加・加入が少しずつ増えている。また、福祉関係機関がともに取り組む貴重な機会となっている【C】⁽²⁾。</p>
<p>自治体名：山形県 大石田町（平成27年度収集） 累計降雪量946cm</p> <p>事業の名称：山形大学、東北学院大学との連携</p> <p>事業概要：山形県（雪みらい推進機構）・尾花沢市・大石田町・尾花沢市社協との共同事業【C】。豪雪時に除雪ボランティアの支援が必要な地域に対し、お互いのネットワークを活かしながら、速やかに大学の学生ボランティアの募集・派遣を行う【G】ため連携して取り組む。</p> <p>事業費：0円（当社協としてこの事業について予算は設けていません）</p> <p>成果と思われる事項：地域住民と学生たちとのふれあい交流ができてよかった。スケジュール化されているので、イベント的要素が強過ぎ、また現実の雪の状況に合っていないところも生じている。</p>
<p>自治体名：山梨県 南アルプス市（平成27年度収集） 累計降雪量239cm</p> <p>事業の名称：雪害救援センター（山梨県にて記録的な雪害時）</p> <p>事業概要：（平成26年2月の雪害時に実施）対象は、高齢者世帯、独居高齢者、障害者等の要援護者。市福祉課と連携を図り、民生委員を通じニーズを把握【C】⁽¹⁾。また、市内のケアマネを通じ情報をキャッチ【C】⁽²⁾する。担い手は市内のボランティア約7割、市外約3割【G】で活動。内容は玄関から公道までの人の歩く範囲の雪かきを実施（生活ができる為の範囲の除雪）。</p> <p>事業費：57千円</p> <p>成果と思われる事項：日ごろからのつきあいの中から、市内の方々が多くかけつけていただきありがたかった。市と連携を図ったことは、スムーズな運営ができ、役割分担も共有【C】⁽³⁾できた。</p>

表4. D. 企業の社会貢献を核とする取組 1 ケース

<p>自治体名：富山県 富山市①（平成26年度収集） 累計降雪量305cm</p> <p>事業の名称：除排雪ボランティアの派遣（建設ボランティアクラブ「富山建友会」）</p> <p>事業概要：担い手は、富山市の建設業に従事している会社で構成され、26社が登録（平成26年度は22社、担い手44人で全員男性）。内容は60歳以上の一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象に、屋根雪の除排雪を実施。建設会社として地元へ貢献【D】できるように、協会の中で有志が集まって活動している。除排雪を実施する世帯を各社で3～4世帯担当し、費用（除雪道具、機械の燃料費、人件費等）はそれぞれの会社で負担する^(ス)ことを原則とする。ボランティア保険加入料のところのみ富山市社会福祉協議会より補助【H】をもらっている。</p> <p>事業費：0円 *（上記理由で企業の社会貢献の為^(セ)）</p> <p>成果と思われる事柄：かつて大雪の年に作業風景が地元新聞に掲載され反響があり、従事した社員のやりがいにつながっていると思われる。また、地道な活動を通じ建設業界の必要性のPRを図っている。（建設ボランティアクラブ「富山建友会」代表談）</p>
--

表5. E. 地域内、有志の助け合いを核とする取組 8 ケース

<p>自治体名：北海道 倶知安町（平成27年度収集） 累計降雪量946cm</p> <p>事業の名称：琴和ボランティア会、ちょばら除雪隊</p> <p>事業概要：町内会、琴和町内会の住民有志【E】⁽¹⁾が、除雪が困難な高齢者、障がい者世帯を対象に月1回、又は状況により随時、除雪活動をしている。</p> <p>事業費：0千円 ※（活動に必須のボランティア活動保険掛け金は町からの補助を受け、スコップ等は町内会より貸与のため実質0円^(ッ)である）</p> <p>成果と思われる事項：町内会における暮らしの困難を抱える世帯の把握や、助け合い精神、課題の共有が図られた【E】⁽²⁾。</p>

<p>自治体名：青森県 黒石市（平成28年度収集） 累計降雪量398cm</p> <p>事業の名称：ふれあい除雪事業（地域活動助成事業内）</p> <p>事業概要：要件：単独町内又は複数町内の共催 対象：65歳以上の一人暮らし高齢者世帯、65歳以上の高齢者夫婦世帯 内容：近所、町内で除雪ボランティアを登録 [E] ⁽¹⁾ し、間口の除雪及び生活道路の確保、屋根の雪下ろしは含まない。</p> <p>事業費：120千円。（内 訳は1町内あたり15千円助成（備品購入のみは対象外）で8町内実施）</p> <p>成果と思われる事項：平成27年度は8町内で実施、延べ回数24回、延べ人数160人。平成28年度は8町内で実施、延べ回数16回、延べ人数128人の実績をあげている [E] ⁽²⁾。</p>
<p>自治体名：山形県 村山市（平成27年度収集） 累計降雪量766cm</p> <p>事業の名称：袖崎地域除雪機貸与</p> <p>事業概要：地区公民館が所有する除雪機を貸し出すほか、地域の青荘年会 [E] ⁽¹⁾ が要援護者宅の除雪を支援する。袖崎まちづくり協議会から毎年40千円助成を受け、利用者からの自己負担は無しで実施 ⁽²⁾ している。</p> <p>事業費：40千円</p> <p>成果と思われる事項：活動により、支え合い精神が育まれている [E] ⁽²⁾。過疎化が進行する中、雪対策の一助となれらばと思う。</p>
<p>自治体名：鳥取県 倉吉市（平成28年度収集） 累計降雪量46cm</p> <p>事業の名称：雪かき隊</p> <p>事業概要：民生児童委員会を中心にボランティアを募集 [E] ⁽¹⁾。地区公民館がニーズ調整。内容：道路から玄関までの雪かき。対象者：独居・高齢者世帯。</p> <p>事業費：0円</p> <p>成果と思われる事項：（地域で行うことと）善意で行われていた民生児童委員の活動が広がってきた（担い手が増えた） [E] ⁽²⁾。</p>
<p>自治体名：新潟県 長岡市（平成27, 28年度収集） 累計降雪量260cm（2年平均）</p> <p>事業の名称：かわぐち遊雪隊</p> <p>事業概要：実施地域は市内川口地域。対象世帯は独居老人世帯等で、長岡市川口支所、長岡市社協川口支所、遊雪隊メンバーの三者で協議し、決定する。担い手は川口地域住民有志 [E]（隊員29名）。民生委員が現場を調査し→遊雪隊事務局（社協川口支所）→遊雪隊代表→遊雪隊班長→隊員へ連絡 [C]。日曜日の午前8時半に集合し、集まった隊員の人数により担当分けを行い、除雪を行う。</p> <p>事業費：20千円（平成27, 28年度）</p> <p>成果と思われる事項：自らの雪下ろしが困難な世帯の除雪支援により、その世帯の精神的、経済的な支えになっていると思われる。</p>
<p>自治体名：青森県 南部町（平成28年度収集） 累計降雪量184cm</p> <p>事業の名称：福祉コミュニティ活動推進事業</p> <p>事業概要：除雪ボランティア活動体制を構築している。又は活動体制を構築しようという町内会に対し、除雪ボランティア活動保険を社協が負担し、町内で、除雪対策会議を開催 [E] した場合に助成金（5000円）を交付する。対象は一人暮らし高齢者世帯、高齢者のみ世帯、障がい者世帯。担い手は近所の住民。</p> <p>事業費：88千円（主な内訳はボランティア保険53,400円、助成金35,000円等）</p> <p>成果と思われる事項：町内会で除雪対策会議を開催することにより、一人暮らし高齢者世帯等の除雪体制が構築されたとともに、要援護者世帯を把握することができ、小地域ネットワークの構築により、日ごろからの見守り活動 [F] が行われる。</p>
<p>自治体名：富山県 富山市②（平成28年度収集） 累計降雪量132cm</p> <p>事業の名称：除雪ボランティア「おらっちゃ雪かき隊」</p> <p>事業概要：自力での除雪が困難で近隣の協力が得られない世帯を対象に市民から募集した除雪ボランティアの派遣 [E] ⁽¹⁾ を行っている。活動内容：玄関先から生活道路まで安全に歩行できる程度の除雪。平成28年度実績：登録56団体、27個人の計479人 [E] ⁽²⁾。申し込み42世帯、依頼世帯9世帯、派遣回数（延べ）15回、活動者数（延べ）23人。活動は平成18年度から継続している。</p> <p>事業費：131千円</p> <p>成果と思われる事項：事前調査など含め、対象世帯の安全の確保と安心感を与え [F]、除雪の支援とあわせて地域の関係づくりを働きかけることができた。</p>
<p>自治体名：兵庫県 香美町（平成28年度収集） 累計降雪量758cm</p> <p>事業の名称：除雪ボランティア募集</p> <p>事業概要：積雪量が多く過疎化が進んでいる集落を中心に、集落福祉委員会 [E] ⁽¹⁾ でボランティアによる除雪が必要な世帯を選定する。ボランティア募集は町内の積雪の少ない地域を中心とする方法と町外からの2本立てで行う。集落内の案内役は集落で担う [G] ⁽¹⁾。</p> <p>事業費：101千円（詳細記載あり）</p> <p>成果と思われる事項：リピーターの確保・近隣市町からの応援は少しずつ定着 [G] ⁽²⁾ してきた。町内の少雪地域からのボランティア参加が新規得られた [E] ⁽²⁾。</p>

表6. F. 安全・安心を核とする取組 4 ケース

<p>自治体名：青森県 青森市（平成27, 28年度収集） 累計降雪量591cm（2 か年平均値）</p> <p>事業の名称：屋根の雪下ろし奉仕活動</p> <p>事業概要：ひとり暮らしの高齢・障がい者世帯等が「屋根雪の不安を解消し、安全に安心して冬期間快適に過ごしていただく」 よう 【F】⁽¹⁾、消防団・ボランティア団体の協力を得て屋根の雪下ろしを実施する。市社協による事前調査（危険性がある場合、雪捨て場がない場合は断念）ののち、消防団・ボランティア団体による屋根の雪下ろし奉仕活動。</p> <p>事業費：8千円（平成27年度） 190千円（平成28年度）</p> <p>成果と思われる事項：高齢・障がい者世帯の屋根雪の不安解消と雪害事故防止 【F】⁽²⁾。</p>
<p>自治体名：青森県 平川市（平成26年度収集） 累計降雪量702cm</p> <p>事業の名称：「スノーバスターズ事業（屋根雪おろし活動）」</p> <p>事業概要：主に一人暮らしの高齢者宅の「屋根の雪下ろし活動」【F】 に対して除雪ボランティアを募って、平川市社協で実施しており、市からも人員協力を行っている。主な担い手は、尾上職人組合、平賀建築業組合、碓ヶ関建築組合、平川市建設協会、平川市管工事組合、平川市商工会青年部 【D】 の方々等で、民生委員より提出された候補者を事前調査し実施している。平成26年度の実績として活動回数は4回、延べ参加者37人、派遣対象世帯は13件あったが実際に利用された派遣先は6件であった。</p> <p>事業費：200千円（概ね市社協より（60%）+共同募金より（40%）の構成）⁽³⁾</p> <p>成果と思われる事柄：団体として地域貢献を重視した考えをもって対応している。行政で対応できない対象者に対して極力支援を考えて対応している。また、この除雪利用者は低所得者であり、実際に利用した方は「生活費から除雪料金を支払うことを考えると大変助かる」と感謝の言葉を述べられている。今後ますます高齢化が進む中で、一人暮らし高齢者が生活を維持するうえで支援を頂くことで安堵感を持つことが期待される（市社協より）。</p>
<p>自治体名：石川県 穴水町（平成28年度収集） 累計降雪量79cm</p> <p>事業の名称：穴水町雪みち歩道除雪ボランティア</p> <p>事業概要：降雪時（15～20cm）、児童・生徒の通学歩道を確保する為、ボランティアを募集し、歩道の除雪 【F】⁽¹⁾ を学校始業前の早朝に行っている。</p> <p>事業費：10千円（役場支出 【H】）</p> <p>成果と思われる事項：子どもの通学時における安全面が確保 【F】⁽²⁾ できる。</p>
<p>自治体名：新潟県 糸魚川市（平成26年度収集） 累計降雪量282cm</p> <p>事業の名称：糸魚川市地域生き活き集落サポーター</p> <p>事業概要：本事業は、高齢化率50%以上の集落を対象に、生活の安心・安全の確保 【F】 と集落の維持・活性化等のために必要な協働作業に対するボランティア（集落サポーター）を市が募集 【H】 し、関係者等の調整及び作業支援を行う。対象作業として側溝の土砂あげや道路、農道及び用水の草刈りや補修作業、地区集会所及び消防格納庫の除雪作業等。除雪は要援護者個人宅の除雪ではなく集会所等。報酬は無報酬とし、交通費は自己負担⁽³⁾。作業内容は人力で対応できる範囲とし作業時間は2時間以内を予定し、進行状況により、やむをえないときは延長。作業内容により重機・機材が必要なときは集落が負担。ただし不足するときは市も協力⁽⁴⁾する。サポーターは高校生以上の個人、団体 【A】 とし、高校生は保護者の同意が必要。登録者への案内は電子メールを基本とする。</p> <p>事業費：数千円程度（使用した機械の燃料費の負担として）</p> <p>成果と思われる事柄：活動時には、地元新聞社が取材、記事として掲載してくれるなど助け合い機運の盛り上がりにつながっている面がある。なお、本事業の対象ではないものの、一部のサポーターの中には「要援護世帯の住宅への除雪のサポートも考えていきたい」という声も出ている。</p>

表7. G. 地域外との交流、イベント性を核とする取組 6 ケース

<p>自治体名：群馬県 片品村（平成28年度収集） 累計降雪量629cm</p> <p>事業の名称：上州雪かき道場の開催</p> <p>事業概要：村外のボランティアの雪かき体験 【G】⁽¹⁾（講習）と村内高齢者宅の除雪活動、地域住民とボランティアの交流 【G】⁽²⁾</p> <p>事業費：150千円</p> <p>成果と思われる事項：新聞やTVの取材もあり、参加者アンケートも好評だった。</p>
<p>自治体名：石川県 白山市（平成27年度収集） 累計降雪量70cm</p> <p>事業の名称：雪すかしボランティア体験in白峰</p> <p>事業概要：雪ダルマまつりにあわせて、除雪技術の習得 【G】⁽¹⁾を図るとともに、事業を通じて地域住民との交流を図ることで、白峰地区の地域性および文化を理解し、地域福祉への理解と意識の醸成を図ることを目的に実施。対象：雪すかしを通して地域住民との交流を希望する概ね18～40歳までの方。内容：一人暮らし高齢者宅の雪すかし体験、ゆきだるま作成支援、地域の方との交流 【G】⁽²⁾。</p>

<p>事業費：100千円</p> <p>成果と思われる事項：雪の多さ、大変さを地域の人みんなで楽しいまつりにして問題解決を図るという方法を学ぶことができた。流雪溝という白峰ならではの除雪方法について学ぶことができた。この事業を通して「雪が多くて大変」というマイナスの部分だけを感じとるだけではなく、雪とともに生きる地域の方たちの知恵や工夫を学ぶことができた。</p>
<p>自治体名：長野県 飯山市 （平成28年度収集） 累計降雪量327cm</p> <p>事業の名称：雪掘りとうど塾</p> <p>事業概要：目的： 市内外、県内外の参加者 [G]⁽¹⁾ に雪に親しんでもらい、さらに雪への「対策」をも同時に体験してもらう [G]⁽²⁾ ことにより雪国・飯山市の良さを知ってもらうこと。</p> <p>事業費：200千円</p> <p>成果と思われる事項：地域住民が外部からのボランティアを受け入れる体制ができた [G]⁽³⁾。住民とボランティアとの人と人とのつながりができた。</p>
<p>自治体名：岐阜県 関市 （平成26年度収集） 累計降雪量90cm</p> <p>事業の名称：雪かきボランティアの募集</p> <p>事業概要：対象：自力では雪かきが困難な高齢者世帯。担い手は、高校生以上。登録者111人、男92人、女19人。市内登録者86人、市外25人 [G]⁽¹⁾。活動地域は板取地域であり、特典として、板取川温泉や板取地域の飲食店などで年間通じて割引が受けられる「会員証」を発行 [G]⁽²⁾。</p> <p>事業費：0千円 [*](移動は市のマイクロバスや公用車を利用^ト) [H]、除雪道具は地域のまちづくり組織が購入したものを借用^ナ。参加者は弁当飲み物を持参^ニ。地元の好意で汁物が提供されることがあった^ミ。</p> <p>成果と思われる事柄：訪問世帯の高齢者からは感謝の言葉を頂いた。参加した方々からは「困っている人の役に立てた充実感が得られた」との感想をもらっている。合併して同じ市民になっても、中心部から40km離れた山村地域のことをあまり知らない市民に、過疎地域の現状や暮らしの様子を理解してもらうことも事業目的 [G]⁽³⁾ としている。</p>
<p>自治体名：秋田県 藤里町 （平成27年度収集） 累計降雪量226 cm</p> <p>事業の名称：北部地区一斉除排雪</p> <p>事業概要：対象：北部地区住民 担い手：北部地区住民その他町民有志、法政大学ボランティアサークルごまちゃん [G]、社協職員等。活動内容：2月中旬ごろ、北部地区の世帯を対象に一斉に除排雪を実施。それぞれの参加できる形（除雪できる人、お昼ご飯を作る人、食材を提供してくださる人等）で参加^ネ。</p> <p>事業費：29千円</p> <p>成果と思われる事項：普段はなかなか除雪できない世帯も地域の皆さんの協力によって一斉に除排雪することができる。除雪に参加できないかたも調理や食材提供等、それぞれの参加できる形で参加。地域住民の交流の場にもなっている。法政大学の若者のパワーで除雪はもちろん交流等の面でも地域の皆さんに喜ばれた [A]（夏にも来町され、その後もこの地域の方々との交流が続いている）。</p>
<p>自治体名：新潟県 南魚沼市 （平成27、28年度収集） 累計降雪量725cm（2年平均）</p> <p>事業の名称：除雪ボランティア活動事業</p> <p>事業概要：当市社協と災害時応援協定を結んでいる深谷市社協 [G]⁽¹⁾ にお願ひし、深谷市の大学生 [B] や体力に自信のある方にボランティアに来てもらっている。また、観光協会とコラボ [G]⁽²⁾ し、除雪体験（かんじきの履き方やスノーダンブの使い方）ツアーを募集し、関東圏から参加者を募っている [G]⁽³⁾。除雪対象は高齢者のみ/単身世帯・高齢者と障害者・児童のみで構成された世帯等である。</p> <p>事業費：100千円（平成27、28年度）</p> <p>成果と思われる事項：地元ボランティアの方も、若い方に「かんじき」の使い方などを教えるのは嬉しいらしく、地域活性 [A] の一つになっていると考えている。</p>

表8. H. 社協、行政サービスの一環を核とする取組 7ケース

<p>自治体名：岩手県 普代村 （平成28年度収集） 累計降雪量67cm</p> <p>事業の名称：社協職員による地域巡回の除雪支援</p> <p>事業概要：社協職員が軽トラックに除雪機を載せて山深い地域を巡回 [H] している。</p> <p>事業費：0円</p> <p>成果と思われる事項：特に記載なし。</p>
<p>自治体名：山形県 最上町 （平成27年度収集） 累計降雪量1005cm</p> <p>事業の名称：スノーバスターズ</p> <p>事業概要：除雪機1台、スコップ、スノーダンブ10台ずつ貸し出し [H] ている。</p> <p>事業費：0千円 [*](平成23年度に県の助成金購入した除雪機をそれ以降活用しているため^ハ)</p>

<p>成果と思われる事項：住民の方々が除雪ボランティアをしたいと思った時、「町社会福祉協議会に相談すれば除雪機など道具を貸し出してもらえる」という認識が広まっている。これらより、除雪ボランティアを行いやすい環境づくりに繋がっている側面もあると考えられる。</p>
<p>自治体名：山形県 遊佐町（平成28年度収集） 累計降雪量182cm 事業の名称：除雪機貸し出し要綱（地域スノーバスターズ支援事業） 事業概要：部落（集落）区長、民生児童委員、除雪ボランティアの代表に対し、遊佐町内の県及び町の除雪対象となっていない道路で、通学路の確保及び区長が住民生活上で除雪が必要と認めた道路を除雪する際に、除雪機を貸し出し [H] する。原則無料とし、燃料は除雪機返却時に満タンで返却してもらう。 事業費：0円 *（燃料費は借受側負担。貸出は例年5件前後の実績のため^ハ） 成果と思われる事項：特に記載なし。</p>
<p>自治体名：群馬県 みなかみ町（平成27年度収集） 累計降雪量238cm 事業の名称：除雪ボランティア 事業概要：町内で積雪の多い地区に除雪ボランティア、社協職員を派遣 [H] し、高齢者世帯などの除雪を行っている。 事業費：0千円 成果と思われる事項：要援護者本人の申し出の電話以外にも、デイサービスの送迎車が入っていけない、屋根の落雪で覆われていて心配などといった民生委員からの依頼で職員派遣に繋がるネットワークが形成されるといった効果がある。</p>
<p>自治体名：新潟県 見附市②（平成28年度収集） 累計降雪量356cm 事業の名称：除雪機貸出事業 事業概要：社協として要援護世帯に対する除雪作業を行う個人や町内会自治会へ除雪機の貸し出し [H] を行っている。加えて、行政のボランティア・市民活動担当部署が地域コミュニティ（住民自治組織）に除雪機を貸与し、要援護世帯に限らず、公共施設等も含め地域の実情に応じて除雪作業を行っている。 事業費：14千円 成果と思われる事項：過去に貸し出しを行い、高齢者世帯等の玄関から道路までの通路や避難路等の除雪や除雪車が除雪の際つくる雪壁の除雪に活用いただき、周辺住民から感謝の声が寄せられた。</p>
<p>自治体名：秋田県 小坂町（平成27年度収集） 累計降雪量477cm 事業の名称：くらしの安心サポート事業 事業概要：自治会等の除雪デー実施時に軽トラック、除雪機を貸し出し [H]。 事業費：30千円 成果と思われる事項：自治会によっては、年に複数回除雪デーを実施するところがあり、軽トラック（ダンプ式）は雪捨ての時に力を発揮することから喜ばれている [E]。</p>
<p>自治体名：北海道 白老町（平成28年度収集） 累計降雪量214cm 事業の名称：砂まき機の貸し出し（通学路の凍結時の転倒防止・安全確保） 事業概要：降雪が少ない当町では雪より氷になるアイスバーンで転倒する事があり、砂まき機を貸し出し [H] している。現在、小学校の通学路に通学支援のボランティアが砂をまき安全確保をしている。 事業費：0円*（機械貸出は無料だが、砂代は借受地域負担^ヒ） 成果と思われる事項：児童の安心・安全な通学と、高齢者の安全な外出のために役立っている [F]。</p>

表9. 1.有償ボランティア形式を核とする取組 8ケース

<p>自治体名：北海道 知内町（平成27年度収集） 累計降雪量587cm 事業の名称：シニア有償ボランティア組織化の推進 事業概要：65歳以上のシニアが対象で有償ボランティア [I] ⁽¹⁾ を組織化。町内13町内会のうち4町内会で設置済み。除雪、屋根の雪下ろし等を利用者負担で実施 [I] ⁽²⁾。1回又は1時間500円以内（有償）。社協から運営費年5万円助成している。必要資材等実費で除雪。 事業費：200千円 成果と思われる事項：シニア会員の生きがい、利用者負担の軽減。</p>
<p>自治体名：新潟県 刈羽村（平成27年度収集） 累計降雪量182cm 事業の名称：かりわささえ愛ねっと 事業概要：対象世帯：高齢者、心身障害児・者及び、けが、病気、妊娠中など何らかの理由により独力で除雪が困難な世帯。活動内容：出入り口などの除雪。屋根から落ちた雪の除去などで、屋根の雪下ろしは行わない。＜かりわささえ愛ねっと＞日々の生活でちょっとした困りごとのある人（利用者）に、お手伝いできる人（協力者）が有償で支援する住民間の支えあい事業 [I] ⁽¹⁾。利用料金：30分100円。 事業費：0千円 *（利用会員と協会員を繋ぐことだけで、特に経費が掛からない為^フ）</p>

成果と思われる事項：近隣互助による除雪の手伝いでもお菓子やお酒でのお礼をしてしまうものであり、購入などの含めた手間を考えると、**30分100円の定額料金のほうが気兼ねなく頼みやすい** **[I]** ⁽²⁾。その結果、定期的に使える。またそれが**近隣同士の仲で利用会員と提供会員になる同意が得られた関係で続けられる** **[E]** といったメリットの声が聞かれる。

自治体名：北海道 岩内町（平成27、28年度収集） 累計降雪量458cm（2か年平均値）

事業の名称：有償ボランティアたすけ♣（手が絵文字）

事業概要：会員制**「有償ボランティア」** **[I]**。利用会員：概ね65歳以上の独居又は夫婦のみの世帯、障がいのある方。協力会員：年齢制限なし。通常除雪（1回500円）。朝15cm程度以上の降雪があればその都度出向き、玄関先から道路まで、1m幅程度の除雪を行う。臨時除雪（1回500円×人数 但し上限2000円）屋根からの落雪や大雪など量が多い除雪について依頼を受けてから出向いて行う。

事業費：31千円（平成27、28年度）（100円/回・人の補助金を出している）

成果と思われる事項：**利用者から「安心」して居られる** **[F]** との言葉をいただいている。

自治体名：宮城県 仙台市（平成28年度収集） 累計降雪量177cm

事業の名称：雪かきお助け隊

事業概要：対象は仙台市社協会員で、宮城地区管内に居住する高齢者（75歳以上）のみの世帯、もしくは自力で除雪することが困難と認められる世帯等。生活道路の確保を目的として、玄関先から公道までの概ね幅1.5m程度で、歩行が安全にできる程度に除雪を行う。屋根の雪下ろしや庭などの広範囲にわたる場所の除雪は行わない。除雪依頼者は負担金としてお助け隊員（活動に協力していただける**「有償ボランティア」** **[I]** ⁽¹⁾ 隊員）一人当たり**60分まで500円（30分増すごとに250円追加）** 交通費は実費とし、**自家用車の場合は1回200円の支払いとする** **[I]** ⁽²⁾。なお、活動に際し当事務所の除雪機を使用した場合は燃料を満タンにし返納するものとする^へ。活動に際してのボランティア保険料は当事務所が負担。除雪活動が可能の場合は依頼者へ事前連絡を行う。

事業費：25千円

成果と思われる事項：平成28年度実施実績8件。75歳以上の高齢者のみの世帯、独居の方への支援を実施。**積雪時には当該世帯を気にかけるような見守りにつながっている** **[F]**。

自治体名：長野県 高山村（平成28年度収集） 累計降雪量414cm

事業の名称：わくわくの会

事業概要：対象は独居高齢者及び高齢者世帯で、担い手は地区内22組の中の3組に1人担当者を決めて行っている。内容は積雪が一定以上となった時、対象者からの要望により**「有償（500円）で除雪」** **[I]**。

事業費：30千円

成果と思われる事項：冬期間、**独居高齢者及び高齢者世帯への見守りにより孤立防止に** **[F]**。

自治体名：新潟県 小千谷市（平成26年度収集） 累計降雪量623cm

事業の名称：雪下ろし支援活動（SOS雪下ろし）

事業概要：**雪下ろし作業会員になる方は小千谷市建設課内にあるSOS雪下ろし支援協議会に申し込む** **[H]**。作業会員になるためには法人または満20歳以上から69歳までの個人で雪下ろし作業経験を有する者。作業会員の任務：協議会から紹介を受けた会員は担当するシーズン申込世帯と事前協議の上、期間中の雪下ろし作業を履行する。申込世帯は、市保健福祉課、社会福祉協議会が行う除雪援助対象世帯及び身体の不自由な方などのみの世帯等雪下ろしができない世帯。ただし家族や親せき知人等の協力や経済的援助を受けられる世帯を除く。雪下ろし作業代金は雪下ろし作業世帯が直接雪下ろし作業会員に支払う。**「作業代金は公表しないものの日額18,400円または1時間あたり2,300円/人とする」** **[I]**。

事業費：180千円 *（市の単独補助。支出はほとんどが作業員の保険料助成^ホ）

成果と思われる事柄：作業会員、利用者ともに聞き取り等は実施していない。しかし、事業開始の頃の15年前に40名程度だった作業会員が90名近くに増えている。市報やホームページ等で募集することで、冬期間に手が空く農家、土木・建築の方々が多く登録してくれる。そのような方々のよい活動の場となっているとも考えている。

自治体名：新潟県 見附市①（平成26年度収集） 累計降雪量1420cm

事業の名称：除雪ボランティア（有償）

事業概要：自力で除雪できない要援護世帯（高齢者世帯）を対象に**「有償で行う除雪ボランティア」** **[I]** を派遣する。**市まちづくり課が「除雪等を希望される世帯」と「有償のボランティア登録を希望している個人」をマッチング** **[H]** している。

作業を行う活動者は、活動登録した上で保険に加入する（市負担）。屋根雪除雪も行い、活動者は報酬として一人1時間2000円を依頼者から直接受け取る。概ね1軒につき3～4人で活動し、2～3時間程度要する。平成26年度の派遣実績は12件ですべて雪下ろし。

事業費：保険料の2～10千円（スコップや手袋等の活動経費は全て有償ボランティア登録者が負担^マ）

成果と思われる事柄：以前は屋根雪除雪も知人・親類に依頼していたが、重労働かつ危険な作業であり、他人に頼みづらい現状が見受けられた。この事業により、業者より低額で、かつ、人に気兼ねすることなく依頼できることから、毎年依頼される方も少なくない。

自治体名：北海道 石狩市（平成26年度収集） 累計降雪量599cm

事業の名称：NPO法人 あつたライフサポートの会

事業概要：特別豪雪かつ過疎地域である厚田区で住民による**「有償除雪ボランティア」** **[I]** を行っている。除雪を行うサポーターと利用者がそれぞれ会員登録し、高齢者宅の除雪を行う。

事業費：約100千円

成果と思われる事柄：いつまでも安心して暮らすことのできる地域をめざし、住民自らが地域課題である「除雪」を解決するため、地域共助で日常生活を支援【E】することで、地域住民の健康及び福祉の向上が図られている。また、雪による建物の倒壊や高齢者の転落事故防止【F】にも結びついている。

Ⅲ－２．作業仮説２の検証結果（１）活動主体や内容の特徴が最も現れている（核となる）部分以外にも、低予算で実現する取組にはどういった活動内容等の特徴が含まれるか

地域住民による除雪作業だけでなく学校教育活動との連携、有償ボランティア組織を作って助け合うというものがあるように活動内容や活動組織の多様化がみられた。そのため、表１から表９までの記載の54取組の説明で記載された全ての文の中から、除雪作業の主体、内容等が書いているところ全てに注目しアンダーラインを引き、【コードA】～【コードI】を割り振った。54の取組で総数102個の【コード】が出現し、その内訳は表10の通りであった。

表10. 54の取組において出現した総数102個の【コード】の内訳

【A. 世代を超えた交流】	13個（12.7%）	【F. 安全・安心】	19個（18.8%）
【B. 学校生徒・大学生】	11個（10.8%）	【G. 地域外との交流、イベント性】	14個（13.7%）
【C. 多機関・団体連携】	8個（7.8%）	【H. 社協、行政サービスの一環】	12個（11.8%）
【D. 企業の社会貢献】	4個（3.9%）	【I. 有償ボランティア形式】	8個（7.8%）
【E. 地域内、有志の助け合い】	13個（12.7%）		

Ⅲ－３．作業仮説２の検証結果（２）核となる部分とそれ以外の活動内容等の特徴との組み合わせ

前述の表10のとおり54の取組で総数102個の核となる部分以外の活動内容等の特徴を示すコードが表れており、核となる部分囲み字とどのような組み合わせになっているかみた。まず、次のページの図1のように核となる囲み字は各取組との共通性が高いと思われる【E.地域内、有志の助け合い】を中央とし【A.世代を超えた交流】から【I.有償ボランティア】の9つ配列した。その上で54の取組がどのタイプに位置するかをみた。合わせて、タイプごとの平均事業費を算出し比較も試みた。

図1. 核となる部分とそれ以外の活動内容等の特徴についての組み合わせ

住民・生徒・学生・企業等が主導する体系

福祉サービス等支援を受けて活動する体系

【G 地域外との交流、IT・IT性】

片品村	【G】	(150)
白山市	【G】	(100)
飯山市	【G】	(200)
関市	【G】	(0)
藤里町	【G】 【A】	(29)
南魚沼市	【G】 【A】 【B】	(100)

<6 ケース平均事業費額 96.5>

【D 企業の社会貢献】

富山市①	【D】 【H】	(0)
------	---------	-----

<1 ケース平均事業費額 0>

【A 世代を超えた交流】

米沢市	【A】 【B】	(58)
雫石町	【A】 【F】	(200)
京極町	【A】 【G】	(57)
千歳市	【A】 【D】 【F】	(0)
会津若松市	【A】 【E】 【F】	(0)
西和賀町	【A】 【B】 【D】 【G】	(180)

<6 ケース平均事業費額 82.5>

【H 社協、行政サービスの一環】

普代村	【H】	(0)
最上町	【H】	(0)
遊佐町	【H】	(0)
みなかみ町	【H】	(0)
見附市②	【H】	(14)
小坂町	【H】 【E】	(30)
白老町	【H】 【F】	(0)

<7 ケース平均事業費額 6.3>

【E 地域内、有志の助け合い】

倶知安町	【E】	(0)
黒石市	【E】	(120)
村山市	【E】	(40)
倉吉市	【E】	(0)
長岡市	【E】 【C】	(20)
南部町	【E】 【F】	(88)
富山市②	【E】 【F】	(131)
香美町	【E】 【G】	(101)

<8 ケース平均事業費額 62.5>

【B 学校生徒・大学生】

北上市	【B】 【A】	(10)
山田町	【B】 【A】	(0)
旭川市②	【B】 【F】	(20)
名寄市	【B】 【G】	(0)
花巻市	【B】 【A】 【G】	(0)
旭川市①	【B】 【F】 【E】	(5)
夕張市	【B】 【F】 【G】	(1)
尾花沢市	【B】 【A】 【C】 【F】	(0)

<8 ケース平均事業費額 4.5>

【I 有償ボランティア形式】

知内町	【I】	(200)
刈羽村	【I】 【E】	(0)
岩内町	【I】 【F】	(31)
仙台市	【I】 【F】	(25)
高山村	【I】 【F】	(30)
小千谷市	【I】 【H】	(180)
見附市①	【I】 【H】	(5)
石狩市	【I】 【E】 【F】	(100)

<8 ケース平均事業費額 71.4>

【F 安全・安心】

青森市	【F】	(99)
平川市	【F】 【D】	(200)
穴水町	【F】 【H】	(10)
糸魚川市	【F】 【H】 【A】	(5)

<4 ケース平均事業費額 78.5>

【C 多機関・団体連携】

礼文町	【C】	(100)
西目屋村	【C】	(40)
黒部市	【C】	(200)
昭和村	【C】 【F】	(0)
大石田町	【C】 【G】	(0)
南アルプス市	【C】 【G】	(57)

<6 ケース平均事業費額 66.2>

注) 【 】はカテゴリー、()は事業経費で千円単位の略記。京極町、青森市、西目屋村の複数年度で事業費が違う場合は平均額。

糸魚川市の事業費数千円と見附市①事業費2～10千円については5千円とした。

Ⅲ-4. 作業仮説3の低予算で実現する理由の自由記述だけに注目して分類整理した結果

表1から表9までの取組紹介中の文中に、低予算で実現する理由として記載があった箇所限定して注目した。該当したのは注釈^{ア)～マ)} 網掛け31箇所（1つの取組から2つ以上取り上げたものもある）である。たとえば、表5の北海道倶知安町の取組紹介にあるボランティア活動保険掛け金は町からの補助を受け、スコップ等は町内会より貸与のため実質0円^{ナ)}については、「町からの補助」を行政の補助等協力に、「スコップ等は町内会より貸与」は地元地域等が負担のように複文も含まれるので意味の取れる範囲で断片化しコードとした。コードを内容の類似性に従い集約していった結果が表11で、大きく5つに分類された。

表11. 低予算で実現する理由として考えられる5つの要素と出現数の関係

5つの要素: 出現した取組数(重複数で内数) 脚注ア)～マ) のコードの分類結果

参加者自己負担: 10(2)	ウ) エ) カ) ツ) ニ) ツ) ニ) ハ) ヘ) マ)	シ)	ケ)
参加企業等 [*] が負担: 5(1)	ア) イ) ス) ヤ)	シ)	
地元地域等 [*] が負担: 10(4)	オ) タ) ナ) ス) ネ) ヒ)	ソ) テ)	キ) サ)
市町村社協の補助等 [*] 協力: 8(3)	ク) コ) チ) ノ) フ)	ソ) テ)	キ) サ) ケ)
行政の補助等 [*] 協力: 7(5)	ト) ホ)	ソ) テ)	キ) サ) ケ)

参加企業等^{*}には地元の福祉サービス事業所、地元地域等^{*}には自治会や地域の任意互助組織が含まれる。市町村社協の補助等^{*}には資金援助の他に広報連絡調整等が含まれ、行政の補助等^{*}には資金援助の他に移動のための公用車や保有バスでの輸送協力等が含まれる。

Ⅲ－5. 作業仮説4の多雪地域に取組が多いかを検証した結果

表中で各市町村名の隣に表示した累計降雪量（cm）を用い、対象54取組が展開されている51市町村の累計降雪量を比較した。結果は表12のとおりであった。

表12. 事例地51市町村の累計積雪量

～200cm	12(23.0%)	401～500cm	4(8.0%)
201～300cm	9(18.0%)	501cm～	22(43.0%)
301～400cm	4(8.0%)	平均481.039cm 標準偏差322.581	

Ⅳ. 考察

全国的規模での詳細な除雪ボランティアの取組に関する情報を収集したデータベースがこれまでに無く、やはり自ら収集した取組事例について事業費規模で絞り込んでいく他に方法がなかった。そういう意味でも低予算で実現する除雪ボランティアの取組について傾向分析に留まることが本研究の限界でもある。これを踏まえて、各検証結果より得られた知見を順番に述べたい。

第1に、低予算で実現する取組には活動主体や内容の特徴があり、いくつかの種類（タイプ）があるのか検証した結果に注目する。表1から表9記載のとおり**A.世代を超えた交流、B.学校生徒・大学生、C.多機関・団体連携、D.企業の社会貢献、E.地域内、有志の助け合い、F.安全・安心、G.地域外との交流、イベント性、H.社協、行政サービスの一環、I.有償ボランティア形式**の9つのタイプわけができた。こうしたタイプわけで表1から表9のように具体的に取組の情報を記載できたことは、似たような活動主体・活動形態で取り組んでいる地域、あるいは取り組もうと考えている地域に対してレファレンス（参照）機能が働く形で情報提供ができ有益であると思う。

第2に、低予算で実現する取組には活動主体や内容の特徴が最も現れている（核となる）部分以外にもどういった特徴が含まれるかについて検証した結果に注目したい。表10のとおり総数102個の【コード】が出現し、最も多かったのが【F.安全・安心】19個（18.8%）、次いで【G.地域外との交流、イベント性】14個（13.7%）、【A.世代を超えた交流】13個（12.7%）、【E.地域内、有志の助け合い】13個（12.7%）だった。【F.安全・安心】が最も多かったことは冬期の高齢者世帯の見守り訪問を兼ねた安心して暮らせる地域や児童の通学路の安全確保等の目的も兼ねた除雪ボランティア活動が多いことを意味する。また、4番目に多かった【E.地域内、有志の助け合い】とも密接な繋がりが考えられる。加えて、2番目3番目に多かった【G.地域外との交流、イベント性】と【A.世代を超えた交流】からは除雪ボランティアを共通目的と

して集う機会を創出しているという共通性も見出せる。各取組について構成要素の影響を分析するような視点で細かく見ていくと、地域住民による除雪作業のみならず学校教育活動との連携、冬期の交流イベントとの連携、有償ボランティア組織を作って助け合うというものがあるように地域によって多様な形の除雪ボランティアがあることがわかる。

第3に、54の取組について活動主体や内容の特徴が最も現れている「**囲み字**」(核となる)部分とそれ以外の特徴を示す活動等との組み合わせを検討した結果の図1に注目したい。まずは核となる「**E.地域内、有志の助け合い**」が中央に位置してコードが繋がる場合が比較的多い「**A.世代を超えた交流**」・「**B.学校生徒・大学生**」・「**D.企業の社会貢献**」・「**G.地域外との交流、イベント**」の4領域があり、「**住民・学生・企業等が主導する体系**」とみることができる。同様にコードが繋がる場合が比較的多い「**C.多機関・団体連携**」・「**F.安全・安心**」・「**H.社協、行政サービスの一環**」・「**I.有償ボランティア**」の4領域があり、「**福祉サービス等の支援を受けて活動する体系**」とみることができる。前者は学生や生徒の活用という純粋な無償の労力提供や企業の社会貢献活動を取り込む等の工夫、後者は市町村社協や行政職員によるボランティア及び、福祉関係の多機関連携対応並びに、活動経費も有償報酬にて賄いつつ総事業費が拡大しないよう有償ボランティア形式を採る等の工夫が特徴として指摘できる。なお、この2つの体系の枠組みにおいて事業費規模の大小の有無があるのかと言えば、一概に言えない。どちらにも事業費規模の極端に小さいものがあり、「**D.企業の社会貢献**」では平均事業費0円、「**B.学校生徒・大学生**」でも4.5千円、「**H.社協、行政サービスの一環**」の6.3千円があったからである。反対に「**G.地域外との交流、イベント**」は、その活動規模や参加者の多さなどから96.5千円で最も平均の事業予算の規模が大きく、低予算の活動に絞り込んだといえども活動主体や内容によっては事業費に開きがあることがわかる。

第4に、54の取組のうち低予算で実現する理由が実際に記述されている箇所があったので、該当箇所だけ対象とし分類整理した結果に注目する。表11のとおり5つの理由に集約され、多かった順に**参加者負担、地元地域等**で、これに**市町村社協の補助等、行政の補助等**が続いた。低予算での実現のために2つ、3つの組合せをして工夫をしているところあり、表の脚注部分の該当する取組からはその手法が学べるものとする。

第5に、小雪地域より多雪地域に取組が多いのかという検証結果である表12に注目する。累計降雪量区分200cm以下の小雪地域から900cm前後の積雪がある多雪地域まで取組は存在していた。やはり501cm以上の地域での取組が全体の43.0%を占める一方で、200cm以下の小雪地域でも取組が23.0%あり、小雪地域なりの工夫で除雪ボランティアが展開できることが明らかになった。たとえば、小雪地域から多雪地域への応援だったり、除雪の支援が必要な世帯は山間地に暮らす一部の世帯に限られているので市町村社協職員等で対応可能だったり、所有する小型除雪機を貸与し燃料費は地元負担してもらう形で事業費をつけるまでもないという対応をする等工夫をしていたからである。

以上より、それぞれの地域において低予算で除雪ボランティア活動が実施できるよう社会資源を活用することで事業費を抑える様々な工夫があることを明らかにできたものとする。こういった観点からの研究成果の公表がこれまでになかったため、本稿執筆により普及の一助になれば幸いである。

謝辞

調査研究のためにデータ提供を頂いた市町村と市町村社会福祉協議会に対してここに記して感謝申し上げます。本稿はJSPS科研(若手研究B)26780317及びJSPS科研(基盤研究C)17K04235の成果の一部であり、ここに記して謝意を表したい。

注及び引用

- 1) 高橋和幸（2010）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その1）」『ノースアジア大学総合研究センター教養文化論集』5(2):111-124, 高橋和幸（2011）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その2）」『ノースアジア大学総合研究センター教養文化論集』6(1):115-129, 高橋和幸（2012）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その3）」『ノースアジア大学総合研究センター教養文化論集』7(1):183-193, 高橋和幸（2013）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その4）」『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』13:37-49, 高橋和幸（2014）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その5）」『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』14:33-50, 高橋和幸（2015）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その6）」『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』15:42-61, 高橋和幸（2016）「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その7）」『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』16:45-63, 高橋和幸「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その8）」『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』17:31-49
- 2) 国土交通省国土政策局（2013）「共助・公助による地域除雪の取組事例集」国土交通省 http://www.bousai.go.jp/setsugai/pdf/h2404_003.pdf 及び国土交通省国土政策局（2013）「平成24年度雪国の安心安全な暮らし確保のための克雪体制推進調査報告」国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/001011075.pdf>
- 3) 国土交通省国土政策局（2014）「平成25年度雪処理の担い手確保・育成のための克雪体制支援業務 新たな地域除排雪の取組事例」国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/001087922.pdf>
- 4) 国土交通省国土政策局（2015）「平成26雪処理の担い手確保・育成のための克雪体制支援業務報告」国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/001049423.pdf>, 国土交通省国土政策局（2016）「平成27雪処理の担い手確保・育成のための克雪体制支援業務報告」国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/001098464.pdf>, 国土交通省国土政策局（2017）「平成28雪処理の担い手確保・育成のための克雪体制支援業務報告」国土交通省 http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku_chisei_tk_000090.html
- 5) 国土交通省国土政策局（2016）「安心安全な克雪体制づくり取組事例集」国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/common/001129967.pdf>
- 6) 了解を得て自治体の取組を紹介もらう調査方法は、財団法人地方自治研究機構（2011）「地域協働のまちづくりに資する人材開発に関する自治体アンケート」でも実施され、回答自治体に不利益が発生しないように配慮されていた。同報告書については、財団法人地方自治研究機構が公開する http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h22/h22_13.pdf を参照のこと。

参考文献

- 川喜田二郎（1967）『発想法』中央公論社
戈木クレイグヒル滋子（2005）『質的研究法ゼミナール』医学書院
渡辺深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房
西村克己（2010）『図解で思考する技術』PHP 研究所
諸橋和行（2014）「地域除雪イノベーションの事例研究—国土交通省の克雪体制支援調査から—」『日本雪氷学会・日本雪工学会（2014・八戸）雪氷研究大会講演要旨集』108.
国土交通省国土政策局（2017）「豪雪地帯現況分析検討調査業務 現況分析調査報告書」国土交通省:1-199